

## 「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

## ＜本年度の学力向上策等＞

## 1 授業改善の推進

- 一人1研究授業の推進（すべての教員が研究授業を年1回実施する）
- さいたま市の「よい授業集計システム」を活用し、授業の改善を図る。
  - （1）「よい授業集計システム」を活用し、教員一人ひとりの課題や授業改善のポイントを明確にする。
  - （2）教職員一人ひとりが、授業改善を図る手立てを明確にし、管理職と確認する。
  - （3）約2か月間授業改善の取組を実施したのち、「よい授業改善システム」により改善の状況を確認する。
- 全校で統一して取り組む、授業改善の視点を設定する。

## 2 計算力向上プロジェクトの推進

- 児童が身に付けなければならない計算技能を学年ごとにスモールステップとして設定し、毎月達成状況を確認する。
  - （1）基礎・基本の時間を活用し、最低週3回以上、全学級で実施する。
  - （2）課題を終えるまでにかかった時間を記録する。
  - （3）なかなか課題を達成できない児童への指導法や手立てについて協議する。

## 3 辞書引き学習の推進（3年生以上）

- わからない言葉等があったとき、すぐに辞書を引く確認できる習慣をはぐくむ。
  - （1）辞書引き学習のオリエンテーションを実施する。
    - ・辞書置場の確認。調べた言葉を付箋に書き、辞書に付ける。
  - （2）1か月ごとに調べた語彙数を記録する。

## ＜本年度の振り返り＞

- 研究授業や事前授業、学年内研究授業を含め、全ての教員が年1回以上授業研究を行った。
- 第2回目「よい授業集計システム」の結果、すべての項目で改善が図られた。明確となった課題に対する手立てを検討し、改善していく。
- 全ての学年において、達成率の伸びが見られた。特に、1，2，3年生では、全てのプリントで、8割を超える達成状況となった。高学年では、計算の基礎ができていないと難しいという課題が挙げられたことから、始めるプリントの精選を行っていく必要がある。
- 4年生以降は、2年目ということもあり辞書を引く習慣が身に付いてきており、3年生も、すぐに辞書を引く習慣や知っている言葉の数は増えつつある。

